

令和5年度



# 幼稚園だより 7月号

文京区立小日向台町幼稚園

## カレーパーティーへの道のり

園長 小岩井 聡

5月8日を境に新型コロナウイルス感染症の分類が、5類に移行したことを受け、学年でのプール指導、話し合い活動、遠足など、みんなで経験できる活動が安心して様々な場面で見られるようになってきました。子どもたちも、様々な経験を楽しんでいる様子が見られます。

さて、先日さくら組、すみれ組が育てていたジャガイモを収穫しました。ジャガイモ掘りをして、学年のみんなで、このたくさんのジャガイモをどうしようかと考えました。そして昨年度の自分たちの経験を思い出し、舌鼓を打ったカレーパーティーをしようと考えました。

そこで担任と子どもたちとで相談して、まずは園長に話して開催の許可をもらおうということになったようです。そして、次の日のお弁当の前に、学年で話し合っている子どもたちの所に呼ばれて行くと、「園長先生、カレーパーティーしてもいいですか?」と、尋ねてきました。

「カレー?誰が作るの?」と私が聞くと、「主事さん」の答え。「いくら主事さんでも、幼稚園のみんなが食べる分のたくさんのカレーは作れないんじゃないかな。」と言うと「自分たちで作る。」との元気な返事。「でも、幼稚園のみんなが、お腹一杯になるくらいたくさんのカレーを作るのは大変だよ。無理じゃない」と言う、「みんなで協力して作る。」「みんなで、力を合わせて頑張る!」という素敵な言葉が飛び出しました。「でも、ジャガイモカレーになってしまうねえ。カレーに入れる他のものがないね。」と投げ掛けてみました。すると「みんなで必要なものを買い物に行く!」そこで私が「つまり、みんなが育てたジャガイモと、買い物してきたにんじんや玉ねぎ、カレールーを使って、美味しいカレーをみんなで作ってくれるということ?」と聞き返すと、自信満々に「そう!」と目を輝かせて答えてくれました。

ということで、カレーパーティーの開催となりました。子どもたちにとっては、自分たちのためだけでなく、年少、年中さんのために、頑張ったたくさんのカレーを作ることは一大事です。でも頑張ろうとする子どもたちの姿は、自信に満ちているように感じられます。それは、仲間と一緒にという安心感なのかもしれません。

私とのやり取りの中でも、仲間と一緒に考えて行動する姿や、決断する力を感しました。何より仲間と作るということは、「自分の」ではない「みんなで」の気持ちがしっかり育っているということです。コロナ禍では、このような体験すら子どもたちはできない状況でした。「生命」と比べれば、我慢も仕方ないことかもしれません。でも子どもたちにとっては、協働して物事に取り組むことは大切な経験であり、これからの生きる力を育てる大切な学びとなるはずです。

ちなみにカレーパーティー当日は、招待した年長児も、招待された年中・年少組も楽しいパーティーで大満足。この園だよりがお手元に届く前に、空のお弁当箱と子どもたちの満面の笑顔とともに、素敵な報告されていることでしょう。

最後に、7月21日からは、夏休みが始まります。いろいろな経験をご家庭でもたくさんされることでしょう。お家の方とする一つ一つの経験が子どもたちの成長を促す、大切な学びになるはず。ぜひ、楽しい夏をお過ごしください。

